

- CRLアジア研究連携センター開所式典のご案内
ーアジア地域の産学官研究連携オープンプラットフォーム機能を実現ー

- 平成15年4月25日
-

独立行政法人通信総合研究所(理事長:飯田尚志 CRL)は、アジア地域との研究連携の推進を目的としたCRLアジア研究連携センターをタイに開設しました。同センターの下にアジア言語処理技術の研究を目的としたタイ自然言語ラボラトリーをタイに、また車や歩行者に適応する無線通信技術の研究を目的とした無線通信ラボラトリーをシンガポールに設置しました。

この度CRLアジア研究連携センターの開所式典を4月30日にタイサイエンスパークにて開催します。なおこの式典は日アセアン交流年の記念行事の一環として実施されます。

<背景>

CRLは、情報通信に関する総合的な研究開発を通じた国際社会への貢献を使命の一つとしています。国際的に産学官を結集し、研究開発を推進する機能、いわゆるオープンプラットフォーム機能の構築を目指しています。アジア発の国際標準を目標に標準化機関、大学及び研究機関との連携を深めていきます。この目的のためアジア地域での優秀な人材の発掘、研究者交流、技術移転などを行っていきます。

<センターの役割>

1. CRLは、日本におけるリサーチパークなど産学官連携体制を基盤に海外のサイエンスパークと連携し、面的な広がりを持った連携を実施します。このためCRLアジア研究連携センターが海外のサイエンスパークで産学官の連携の核となり、産や学に十分な利益をもたらすよう努めます。
2. アジア地域に適した課題や標準化を視野に入れた課題を選定して自ら研究開発を実施し、アジア地域の優秀な研究者の確保に努めます。
3. 標準化を視野に入れた研究開発を行います。タイにあるアジア太平洋電気通信共同体(APT)など国際標準化機関との連携を積極的に推進します。
4. 国際共同研究、研究者交流、技術移転、教官派遣などについては、他機関と連携し国内外の施策制度も広く活用致します。

<開所式典>

CRLアジア研究連携センター開所式典

日時: 平成15年4月30日(水)10時30分-13時

場所: タイサイエンスパーク

出席予定者: 加藤総務副大臣、時野谷在タイ日本国大使館特命全権大使、
Mr. Phinijタイ国家科学技術大臣、Dr. Surapongタイ国家情報通信技術大臣、
Dr. Pairashタイ国家科学技術開発庁長官等

<問合せ先>

CHUJO Wataru, CRL Asia Research Center, Thailand,
TEL +66-2564-6950-51, FAX +66-2564-6952

通信総合研究所企画部広報室 柳光 広文
TEL 042-327-6351, FAX 042-327-7587



図1 CRLアジア研究連携センターの設置



図2 CRLアジア研究連携センター及びタイ自然言語ラボラトリーが入っているタイサイエンスパークの国家電子コンピュータ技術センター(NECTEC)ビル



図3 無線通信ラボラトリーが入っているシンガポールサイエンスパークIIのTeleTech Parkビル

通信総合研究所の概要

通信総合研究所は、1952年に郵政省電波研究所として発足し、2001年4月、総務省(前郵政省)から「独立行政法人通信総合研究所」として新たに発足しました。通信総合研究所は、情報通信に関する唯一の公的な研究機関として、国民生活の安全の確保及び質の向上、社会経済の発展、国際社会への貢献、自然と調和した人類社会の持続的な発展を使命として、電波・光の研究を基盤とし多岐にわたる情報通信の研究開発を総合的に進めております(詳細は<http://www.crl.go.jp/>参照)。

タイ自然言語ラボラトリーの概要

タイ自然言語ラボラトリーでは、アジア言語の解析・生成技術の研究を行います。辞書やコーパスなどアジアの言語資源を開発します。これらの活動を通して、近隣諸国との協力関係を確立し、アジア圏の自然言語処理のための共同研究拠点となるとともに、デジタルデバイド解消のための機械翻訳システムの研究開発を行います。

アジアの言語の研究を開始するにあたって、日本語と類似する特徴(語と語の間に空間を置かない)と英語や中国語に近い構造(活用変化や助詞でなく、語の位置で意味関係を表す)を持つタイ語を研究対象として選定しました。

シンガポール無線通信ラボラトリーの概要

無線通信ラボラトリーは、ITS技術で先行しているシンガポールのサイエンスパークIIIにあるTeleTech Parkビルにあり、現地の国立研究機関IIR (Institute for Infocomm Research)や大学NTU (Nanyang Technological University) 及びアジア地域の他大学と連携し、高度道路交通システム(ITS)や新世代モバイル通信に関連する無線通信技術の研究開発を行います。

将来はシンガポールのみならずアジア地域の研究機関や大学、日本企業等と広く連携し、アジアの優秀な研究者が集うラボラトリーとして成長していくことを目指しています。